

99207¹₀₃ 9.18 (35) 3F

患者等への説明内容記録用紙 (Ⅱ)

説明日 15年9月18日

患者ID

患者氏名

河原 夏江

18歳

(歳)

階

説明医所属

一般消化器外科

説明医名

高田 茂樹 教授

(共同説明者名)

代筆 原田 美也

説明時期

【入院時】【退院時】【その他

_____】:

【(手術)(検査)(処置) = (前)(後)】

【その他

_____】

【具体的説明内容及び説明方法】

説明方法 (口頭・カルテ・レントゲン・写真等・図示・その他)

手術時、皮切を加えた際、血が止まりにくい印象を有し、主治医に「何か内服しているか(血小板凝集薬)」と確認した。症の出血傾向であったが、手術予定通り切開して腹腔操作に入った。何か永久的な人工臓物を造設せずに済んだが、腹腔内臓器の一部の人工臓物を造設した。腹腔内に出血傾向を解明し、止血剤を投与し、再開腹した。仙骨前面、経後壁より woo-zing を認め出血を疑い、新たに追加した。

止血剤を投与した所、出血箇所より出血が一時停止した。止血にも時間を要した。血小板の低下が止血に困難なところを考慮する。

止血を終、降圧後、血漿を補充しているから、経過をみ、一時的にドレーンからの出血も循環動態、止血を要しない。

なお、止血に至ったが、手術後、再出血がみられ、緊急に輸血を要している。出血部を同定し、止血処置を行った。

これ以降、現在までの状態が改善傾向にあるか、今、現在、重症化がみられており、減量、治療に努めている。

「現段階の回復の具合もまだわからない」。

手術後の合併症も併発しているため、手術後、回復の具合も説明。又、手術後の状態も説明して欲しいという意見があり、手術後の経過、主治医から報告を受け、又、主治医の関心から、都度、治療に努め、指示を出していることを説明した。

以上について、上記説明者から説明を受けました。

平成 年 月 日

患者氏名

印

同席者

印(続柄)

※説明記録用紙(Ⅰ)若しくは同意書を作成している場合は署名押印は省略。